

## 【報告】

- 一部：北海道自主夜間中生活体験発表実行委員会の立ち上げと第1回実行委員会
- 二部：各自主夜間中学の運営の現状と課題

期日 2011年6月25日（土）午後1時半より

場所 札幌エルプラザ会議コーナー

## 【出席者（敬称略）】

札幌遠友塾 富田忠義・守田恵美子

函館遠友塾 今西隆人

釧路くるかい 菅裕子

北海道に夜間中学をつくる会 飯塚英明・泉雅人・工藤慶一・篠原省三・船木誠

（旭川遠友塾にも呼びかけをしましたが、6月30日現在、返事がありませんでした。）

## 一部報告

第一回の生活体験発表の反省の中で、道内自主夜間中学の自主性を尊重し、普段の授業・学習の実情にあわせて発表するため、実行委員会形式での開催が提案された。また、各所在地での持ち回り開催についても提案された。

そのための意見交換が、旭川遠友塾以外の各自主夜間中学に集っていただき、昨年、10月30日と11月20日との二回にわたって行われた。

そのさい、つぎのような意見が出された。

函館からは、スタッフの授業内容の交流もあった方がよい。

釧路からは、形式卒業生が多いという学習者さんの実情から、生涯学習から自主夜間中学を位置づける必要もある。

また、開催場所については、所在地での持ち回り開催は釧路と函館との遠距離では移動時間や費用で当面は無理ではないか、との意見があり、二回目は札幌で開催することが決められた。

実行委員会の立ち上げにあたって、北海道に夜間中学をつくる会と各自主夜間中学とで話し合った内容が、そのスタッフ・支援者に十分に伝えられていないことの指摘があった。

改めて、生活体験発表が受講生や学習者たちにとっての意義が確認された。その中で、釧路から、先の発表者はそれまで文字を書くとき他の人に見られないように隠していた。発表後は、堂々と胸を張って、文字を書くようになった。そして、他の学習者さんたちにも札幌に行って発表するように勧めていたことが話された。（この発表者は、6月20日に病気で亡くなった悲しい知らせもされました。）

そして、自分の言葉で自分の思いをたくさんの人に伝えることの意義が話されました。

札幌からも、二人の発表者がその後の授業において自信が付いたように感じられると話されました。

発表後の意見交換において、卒業生などからたくさんの生活体験の話や励ましがあがり、そこでの交流も意味あるものとなった。

実行委員会の名称： 北海道自主夜間中生活体験発表実行委員会  
(とても長く、全て漢字のため、これから良い名称を考えよう)

実行委員長： 今西隆人

事務局： 泉 雅人

実行委員長は各自主夜間中学代表の持ち回りでなってもらおう。今回の出席者では、今西さんが函館遠友塾代表であり、本人了承でお引き受けいただいた。

案内文章の発送や連絡など事務に係わることは、「北海道に夜間中学をつくる会」が引き受け、泉事務局長の住所を連絡先とする。

004-0004 札幌市厚別区厚別東4条5丁目9-23

Tel&Fax 011-897-1426

開催日： 10月9日日曜日 午後1時から5時まで

場 所： 札幌エルプラザ4階大研修室(90名収容)

(第1回の出席者は、69名でした。)

体験発表の内容、発表の人選、人数などは各自主夜間中学で検討していただき、その検討内容を7月20日までに事務局に寄せてもらおう。それを集約し検討を、8月20日(土)午後1時から3時で行う。(集まれる人で)

函館からは、体験発表をビデオ撮影しDVDで放映できようにしてもらいたい。また、他の自主夜間中学の授業をビデオに撮り、それを放映してはとの提案もだされました。

実行委員会の費用

費用については、「つくる会」予算は会場費と第1回の発表者3名の宿泊・交通費を元に計上している。しかし、発表者数で予算不足が生じた時、スタッフ・支援者などにも出席してもらいたいことから、その援助などについては、体験発表の内容が確定した時点で、各自主夜間中学に応分の負担をお願いする。

二部報告

函館遠友塾： 受講生62名(1年14名・2年9名・3年39名)会費2000円/年

会場は函館社会福祉センターをボランティア登録して無料で借りているが、利用状況で曜日が変更になる。目玉であった月一回の給食は「食中毒予防」から中止、二ヶ月に一回にして、仕出しにした。

課題について、「教える」立場から受講生に接する人もいる。そのため受講生から内容が難しいなどの意見もあり、ここらを是正していくことである。

釧路くるかい： 学習者40名 会場は釧路福祉センターを借りている。一部(5:15~6:45)と二部(7:00~8:30)に時間帯を分けているが、遅い時間帯の人数が少ない。年に4回一部と二部の合同学習を行っているが、学習支援部でこの回数を上回っていく希望を持っています。

運営費用は、学習者さんから500円/月もらっているが、市からの支援もありいます

ぐ困ってはいない。社会イノベーション事業支援を受けている。また、市長と市教委生涯学習部も授業見学に来てくれ、話し合いをしており理解を示してくれている。

札幌遠友塾： 受講生 73 名 教室の関係で、スタッフの人数が多く立っている者もできた。スタッフは善意で係わろうとするため、一人で受講生と授業のやりとりをすることもあるが、それを授業後のスタッフミーティングで注意するようにしている。

札幌市教委は遠友塾の授業運営に責任あるとの見解を示し、教室利用は保証された。